



公立山城病院新聞

YAMASHIRO PUBLIC HOSPITAL

発行元 公立山城病院
発行元責任者 中埜 幸治

日本医療機能評価機構認定病院



年頭のご挨拶

院長 中埜 幸治

「明けましておめでとうございます」皆様と当院との絆をより一層深め、地域医療に今後も継続して貢献してゆきますので、ご支援の程よろしくお願い致します。

昨年3月11日に発生した、未曾有の東日本大震災災害に対して国挙げての復興支援を行っていますが、被災した土壌処理やインフラの整備も不十分です。当院も昨年、被災地の一部患者さんの受け入れを行いました。10月22日には、「がんばろう日本」すこやかに生きるために「自分のからだは自分でまもろう」のテーマで第10回「生活習慣病記念住民フォーラム」を開催し、11月12日(土)に京都府、日本赤十字京都支部、京都DMATチームや相楽の消防など関連施設と共同で、奈良盆地地震を想定した「大震災に対する防災訓練」をリハーサルなして実施し、災害時に的確に対応できるかを確かめました。職員やDMAT援助隊が一体となって援助活動を行い、成果と問題点が判明しました。

ところで、昨年7月1日、「住民の健康寿命の延長」と「脳卒中・心筋梗塞の予防と救命」を包括的に行う「脳・脊髄センター」を開設しました。11月17日に「総合的に診る脳・神経疾患」のテーマで第9回住民医療フォーラムを吉田整形外科部長もコメンテーターとして加わり開催しました。待ち望んでいた整形外科医着任の喜びの声と「頸椎症や腰椎ヘルニア」などの手術ができる当院の医療技術の高さやそれぞれスタッフの医療に対する熱意を強く感じるとの賞賛を多数いただきました。さて、これまでお知らせした様に、平成21年1月に「当院の公立病院改革プラン」―1. 当院の果たすべき役割・機能の明確化、2. 「経営効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」―を柱とした3カ年間の計画書



を策定、この計画を実行することで、当初の目標をほぼ達成できました。しかし、「相楽地区の地域医療の現状と将来展望」には幾多の課題があり、「高齢者社会を迎えた地域医療をいかにして守るか」という主旨で「公立山城病院経営改革プラン第二次策定委員会」の第1回会議を10月6日に開催しました。本年2月までに計4回開催されます。今後、「急性期と亜急性期医療に対する当院のあり方」などを課題としていきます。

謹賀新年



平成23年10月1日より、整形外科医として山城病院で仕事をさせて頂いております。昭和59年山口大学卒で卒業後京都府立医大整形外科に入局し、これまで大学付属病院、明石市民病院、済生会滋賀県病院、大阪労働衛生センター第一病院、済生会京都府病院、京都武田病院、宇治病院と府立医大関連病院をまわってまいりました。とくに前任の宇治病院は14年と長期にわたり、現在も宇治に在任しております。

山城病院は整形外科常勤医が3年余り不在であったとお聞きしております。大学教授や医局長からくれぐれも頑張るようにと、指示を受け着任いたしました。大学では外傷・骨折グループで研究、修練を受けました。山城病院は救急、外傷患者さんが多いとのこと、微力ですが、少しでも病院に貢献できればと思っております。

電子カルテが不慣れで、さっそく多方面にご迷惑をおかけしておりますが、一生懸命頑張りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

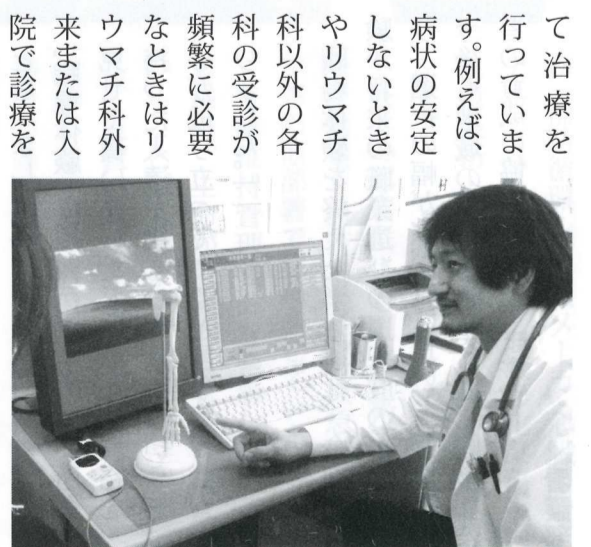
整形外科部長 吉田 宗彦



リウマチ科 紹介

公立山城病院リウマチ科では、いわゆる膠原病疾患と呼ばれる病気を対象に診療をしています。具体的には関節リウマチをはじめとして悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス(SLE)、抗リン脂質抗体症候群、全身性硬化症(強皮症)、皮膚筋炎・多発性筋炎、成人スティル病、結節性動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、側頭動脈炎、乾癬性関節炎、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、線維筋痛症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ウエゲナー肉芽腫症、強直性脊椎炎、不明熱などです。

このような疾患をもつ患者さんはみなさんが考えておられるよりも多く、当院のような総合病院でも一医療機関のみで診療を行えるものではなく、より多くの方々が治療を受けられるように地域の病院や診療所などの医療機関と連携を進めています。



治療を行っていただきます。例えば、病状の安定しないときやリウマチ科以外の各科の受診が頻繁に必要なときはリウマチ科外来または入院で診療を行い、病状が安定すればより受診のしやすい地域の診療所で治療を受けていただくことにしています。

このように地域の医療機関と当院での患者さんの行き来がしやすいように、また患者さん情報を共有できるように各医療機関の先生方と毎月症例検討会を行い、意思の疎通を図っています。

また診療以外で山城病院では看護部、リハビリテーション科、栄養管理室、検査科、薬剤部、地域連携室と一緒に相楽地域のリウマチ患者さんおよびそのご家族を対象に「リウマチ教室」を平成22年より開催しリウマチ性疾患についての情報提供を行って毎回多数の方々に参加されています。

そして平成23年11月、患者さん同士の情報交換の場、「第1回リウマチ患者会」を開催しました。

初回は約30人の方々に参加し、交流を深められました。今後この会が病気に ついての悩みから日常のちょっとした出来事までいろいろなことを気軽に話ができる患者さん主体の場になるように、病院としてバックアップしていきたいと考えています。

これからも山城南地域、およびその周辺の膠原病診療を充実させていきますので宜しくお願いいたします。

リウマチ科 和田 誠

第10回

生活習慣病フォーラムを
開催しました

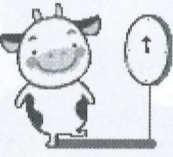
第10回生活習慣病記念フォーラムが10月22日(土)に山城病院で開催されました。今年のテーマは「がんばろう日本！すこやかに生きるために」自分のからだは自分でまもろう」でした。今年も地域の方々を中心に、健康及び生活習慣病に関心のある方たちの参加がありました。今回は、当病院長より東日本大震災と被ばく線量や増え続ける糖尿病など最新版の糖尿病事情について講演がありました。次に、東日本大震災の災害支援活動に参加した高山看護師による活動報告がありました。東北の震災への不安、いっしょで起こるかも知れぬ災害への不安に対し、少しでも心の準備の手助けになったのではないのでしょうか。



日常の生活習慣病予防に対して、理学療法士による運動の必要性や有効な運動についての講演と、全員で山城音頭替え歌に合わせた体操を行いました。健康クイズコーナーでは、クイズを通して生活習慣病予防について理解を深めました。また医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士による相談コーナーを設置し多くの方が利用されました。看護師による身長、体重、内臓脂肪、体脂肪、血圧、血糖、血管年齢の測定、検査科による頸動脈エコー検査も好評で、ほとんどの参加者が測定を行い、自分の健康状態を知る機会になったのではないのでしょうか。今後の地域の皆様方の生活習慣病の予防につながればと考えております。

今回もたくさんの皆様にアンケートのご協力を頂きありがとうございました。アンケート結果をもとにお一層このフォーラムが地域に密着したものになりますよう努力していきたいと考えております。

生活習慣病フォーラム委員一同



中学校職場体験 ~未来の私が見えたよ!!~



当院は毎年、木津川市・相楽東部地域の中学校から、職場体験として、学生を受け入れています。今年度は、6月に木津第2と木津中学校、10月に木津南中学校、11月に泉川・和東・笠置中学校の生徒が体験に来られました。

職場体験に、当院を選んだ理由として、「TVを見ていて楽しそう」「家族が入院して興味を持った」などを挙げていました。当院の白衣に着替えて頂くと、まるで新人看護師のように、初々しく、笑顔が輝いていました。最初に、検査室・放射線科・薬局、手術室など、外来診察では見る事の出来ない部署の見学をしました。又、実際にハビリや病棟での看護体験、隣接する老健やましろでは、ご高齢者と一緒にレクリエーションもしました。実際体験後の感想を一部抜粋してご紹介します。

「私は山城病院の職場体験をして、改めて仕事の大変さが分かりました。包帯を巻くだけでも技術が必要で、赤ちゃんを抱くのもやり方があって、難しいなと思っていただけ、そのやり方を教わりやってみると、すごく楽しく、面白かったです。ただ診察を受けただけでは分からない事が沢山あり、その裏側を見て本当にすごいと思います。私も山城病院の看護師になって、あんな風に働きたいと思いました。」

「職場体験では、普段見られない所も見せて貰いました。いろんな資格を持った人達が集まって病院というものが成り立っていると言う事がわかりました。」

職場体験を終えた学生達は、今回の体験が将来の職業選びの選択肢の1つになり、選択の幅が広がれば良いと思います。今後も地域の中核病院として、健全な若者の育成に協力していきます。

看護部





災害訓練

DMATと合同で 防災訓練を行いました



本年度の山城病院防災訓練は、京都府、京都第一赤十字病院主催による京都府緊急災害医療チーム(DMAT)訓練と同時に方法で平成23年11月12日、JR駅前広場と当院で行いました。今回の訓練は、DMAT、近隣病院、消防など14団体が参加して、大規模な地震発生時に、災害拠点病院とDMATや地域他病院など関係機関との連携・協力のもとで、より迅速な医療救護活動が行えるよう、専門的な知識の習得と技術の維持・向上を目的としたものでした。



訓練内容は11月12日(土)午前11時30分に「奈良盆地東縁断層帯」を震源としたマグニチュード7.5の地震が発生し、山城管内で死者1,760人、負傷者14,360人の人的被害が出ているという想定で、災害拠点病院である当院に、京都府下のDMATが参集し医療救護活動を展開しました。まずは当院の災害マニュアルに基づき、自主参集及び連絡網による連絡により自院の職員が参集し、被害状況の収集、災害用テントの設置や災害用ストレッ

臨床工学技士とは、1987年5月に制定された「臨床工学技士法」に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格です。業務として、生命維持管理装置の操作及び保守点検を業とする医療機器の専門職種です。生命維持管理装置とは、補助循環装置(人工心肺装置・大動脈バルーンポンピング装置)・ペースメーカー・人工呼吸器・血液浄化装置等の臓器の代わりをする装置です。

当院で臨床工学技士という職種が業務に携わるようになったのは、約7年前です。最初は1人から始まり、約3年前に、臨床工学室として独立した部署となり、現在は9人態勢で様々な業務を行っています。

業務内容は大きく分けて、循環器業

チャー等の備品の準備、災害対策本部の立ち上げ訓練を行いました。その後、派遣要請したDMATが当院に到着し、DMATとともに傷病者を重症度に応じて選別し受け入れる(トリアージ)、初期診療、地域他病院からの患者受け入れ、広域医療搬送患者の選別などの訓練を行いました。

私は災害対策本部で大半の時間を過ごし、緊急時の情報収集と管理体制を構築する指揮・命令系統の確立の難しさを体験することができました。想定していない事態や思い通りにいかないことがたくさん発生しましたが、実際の災害時ではもっと想定外の事態が発生すると考えられるので今回の訓練を経験できたことは今後の強みであると思います。また多くの職員が院内災害マニュアルの検証や危機管理における今後の課題について議論し合える良い機会になりました。

災害対策委員 大西 勝也

臨床工学室紹介



務(補助循環・ペースメーカー・心臓カテーテル)・呼吸器業務・血液浄化業務・内視鏡業務・ME機器業務に分かれています。

我々の部署はICU・手術室・病棟・内視鏡室・血管造影室・救急室・透析室等の他部署で業務をしています。

生命維持管理装置を装着している患者様は、生命が危機的な状態に及んでいることがあります。そういう状況では、装置の設定が少し違うだけでも、身体にとっては大きな影響を与えます。個々の患者様に合わせた、高度な医療が提供できるように、スタッフ一同日々努力しています。まだまだ知名度は低いです。チーム医療の一員として力を発揮していきますので、今後も臨床工学技士をよろしくお願致します。

京都府市町村職員厚生会 丹後半島 駅伝大会

山城病院・老健やましろでは、職員の福利厚生また健康増進の一貫として、毎年、丹後半島で行われる駅伝大会に出場しています。丹後半島の海岸線を走る18.5kmのコースで、6区間6人で襷をつなげます。素晴らしい景色を満喫できますが、アップダウンが続く過酷なコースとなっています。今年比較的暖かく走りやすい天候でしたが、風雨や雪の中を走る年もあり自然の厳しさを感じさせられる事もしばしばです。

参加チームは京都府内の市町村役場や消防、病院等の職員で構成される約70チームです。今年も当院から一般チームと女子チーム合わせて4チームが参加し、選手は一丸となって、絆の襷をつなげ全チーム健闘し完走いたしました。

大会に向け約3ヶ月前から練習も行っており、健康の維持、心身のリフレッシュまた職員間の交流にも繋がる為、これからも継続して参加していきたいです。

リハビリテーション科 芳野 宏貴



第9回 住民医療フォーラムが 開催されました



藤田智昭脳神経外科医員の「安全で負担の少ない脊椎脊髄外科を目指して」では、当センターで行っている患者さんへの負担の少ない頸椎腰椎の手術について、動画を交えて示されました。例として、頸椎椎弓形成術、内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術、脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術が紹介されました。

岩本芳浩脳神経外科部長の「総合的診断の有用性・神経は頭から足先まで」では、神経疾患は非常に多彩であるため神経内科と脳神経外科が連携を密にとり診断・治療にあたるのが重要であること、神経は脳から脊髄を通り手先足先の末梢神経まで続いており神経全体を総合的に診る必要があること、脳・脊髄センターでは総合的診断治療を重視し質の高い医療を目指していることが示されました。

吉田宗彦整形外科部長からは赴任のあいさつと、腰の疾患などは整形外科を受診される患者さんも多いため、当センターと連携して診療していくと話されました。

休憩をはさんだ第2部は質問コーナーで、参加された方々からご自身の症状に関する質問などがあり、パネラーが答えるという形で進行されました。

最後に中笠幸治院長から、脳・脊髄センターの紹介と、当院への住民の皆様の更なるご支援のお願いがありました。

今回のフォーラムは比較的多くの地域住民の方に参加していただきました。これからもよりよい内容にしていくよう検討し、継続していきたいと考えています。
【次回 平成24年5月17日(木)に開催予定】



第1回 看護師再就職支援研修

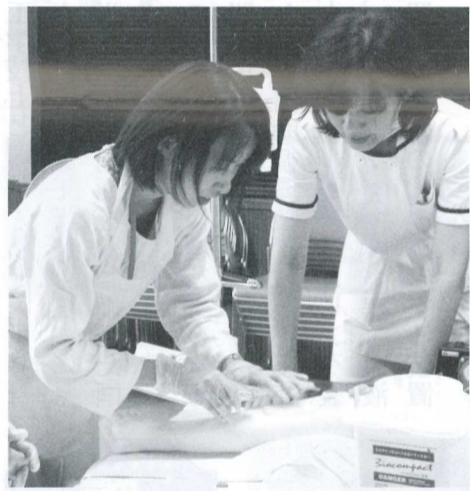
もう一度 看護師として働いてみませんか



看護師免許を持ちながらも、結婚・出産・育児など何らかの理由で現場から離れている看護師、いわゆる潜在看護師は、現在国内で約55万人にのぼると言われています。そのうち8割の方が復職を希望されていますが、多くは休職中の医療現場の変化に不安を持ち、復職に二の足を踏んでおられる現状です。今回当院では、そのような方々が再び自分らしく生き生きと働くことをサポートしたいという思いから、「第1回再就職支援研修」を開催いたしました。



研修には病院のホームページや広報、木津川市広報などを通じ8名の参加があり、職場復帰に必要な看護技術である注射・採血・吸引や、医療機器・電子カルテの操作に加え、現場の雰囲気を感じていただくための看護職員との茶話会や院内見学など、盛りだくさんの内容で行いました。初めは緊張気味だった参加者の皆さんでしたが、シミュレーターを用いた実践に即した技術演習を行っていく中で、「思い出してきた!」「今はこんな風にするのか」などの発言が聞かれ、積極的に質問や演習を行って下さいました。また現場看護師との茶話会では、和やかな雰囲気の中、復職に対する知識や技術への不安や、家事や育児と仕事との両立への不安などを語り合い、「自分だけじゃない」という思いを持っていただけたのではないかと思います。研修後のアンケートでは、「また看護師として働きたくなったか?」との問いに、参加者全員が「はい」と答えておられ、「手技を少し経験できた事が良かった」などの意見を頂きました。



この研修を通して、今回のような再就職支援に対するニーズは高く、また効果的なものであることを実感しました。そのため当院では今後も継続して再就職支援研修を開催し、一人でも多くのやる気を持った潜在看護師の方々の復職をサポートしていきたいと考えます。

看護師募集

神経内科及び整形外科常勤医師着任につき看護職員を募集します。

- 待遇
- 地方公務員に準ずる
 - 期末勤勉手当 年2回(6月、12月)
 - 定期昇給 年1回
 - 主な諸手当 地域手当・通勤手当・時間外手当・夜勤手当
夜間看護手当・住宅手当・扶養手当
 - 福利厚生 院内保育所完備
育児休業制度、互助会慰安旅行・忘年会等

地域の中核病院で一緒に働きませんか

看護部もしくは事務局まで (<http://www.yamashiro-hp.jp>)

Tel0774-72-0235

お気軽にお電話ください

